



イーレックス株式会社

第26期 定時株主総会

2024年6月25日



地球温暖化の影響とされる自然災害が深刻化



脱炭素に向けた世界的潮流

欧州では脱炭素と経済成長の両立を実現



カーボンプライシングの活用

アジア各国では地域特性に応じた脱炭素と経済成長を同時追求



未利用や新しいバイオマス資源の活用が有効

カーボンのクレジットとは

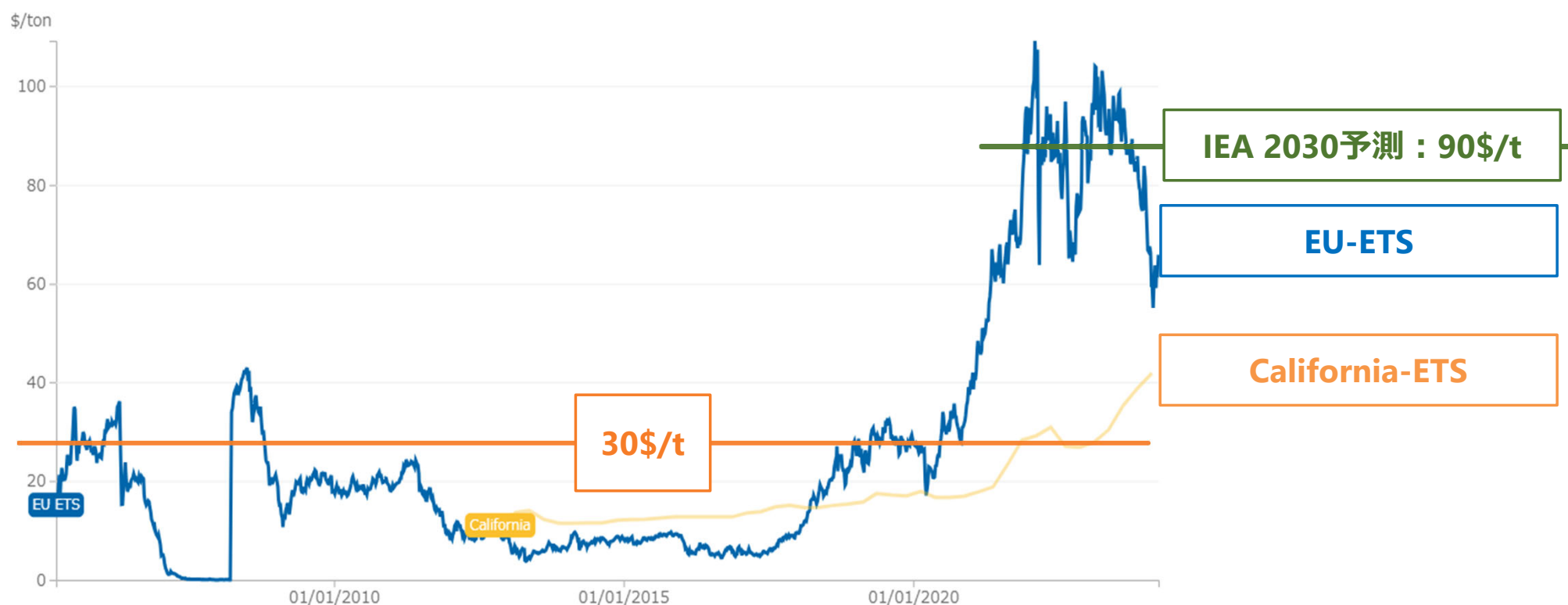
事業者がCO₂を削減した分をクレジット（排出枠）の形で発行し
別の事業者がそのクレジットを購入することで
自身が削減したとみなすことが可能となる仕組み

削減者にとってはCO₂削減によって資金調達が可能となり、
購入者にとっては間接的だが自ら削減したことになる

CO₂の削減に経済的価値を与えて排出枠として取引することで
効果的に脱炭素を推進する仕組み
世界的に活用が進展、日本、東南アジアでも活用検討

カーボンのクレジット市場の現況

日本を含むアジア地域でもETS市場価格はEU/California-ETSと同程度の水準になると想定



目 標

2050年カーボンニュートラル

グリーントランスフォーメーション（GX）基本方針

「成長志向型カーボンプライシング構想」
気候変動対策と産業競争力強化・経済成長を同時に実現

第7次エネルギー基本計画

再エネ拡大で社会的コストを膨らませない施策

The background of the slide is a composite image. On the left, a realistic 3D rendering of the Earth shows the Pacific Ocean, Asia, and Australia. A white circle highlights the Southeast Asian region. On the right, a light gray silhouette map of the Asian continent is visible.

2023年度の振り返り

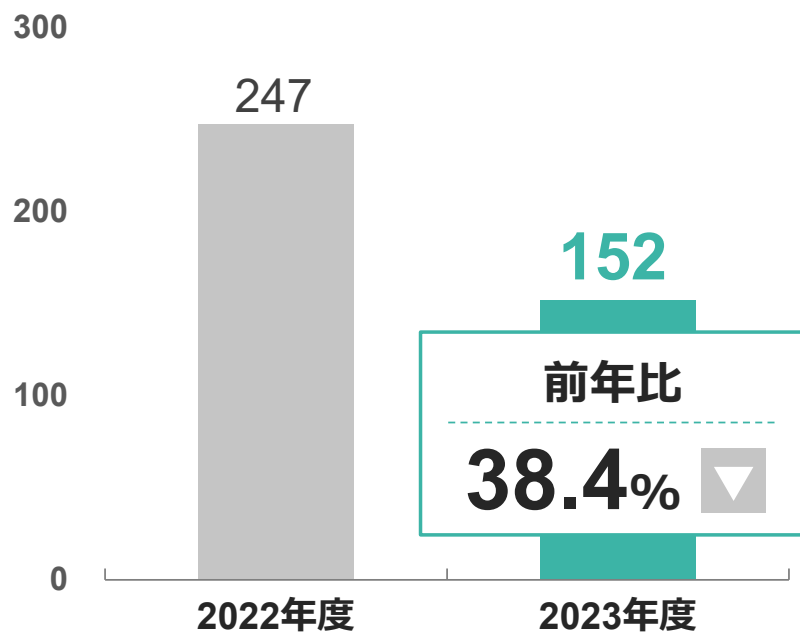
■事業環境

■業績

■対策

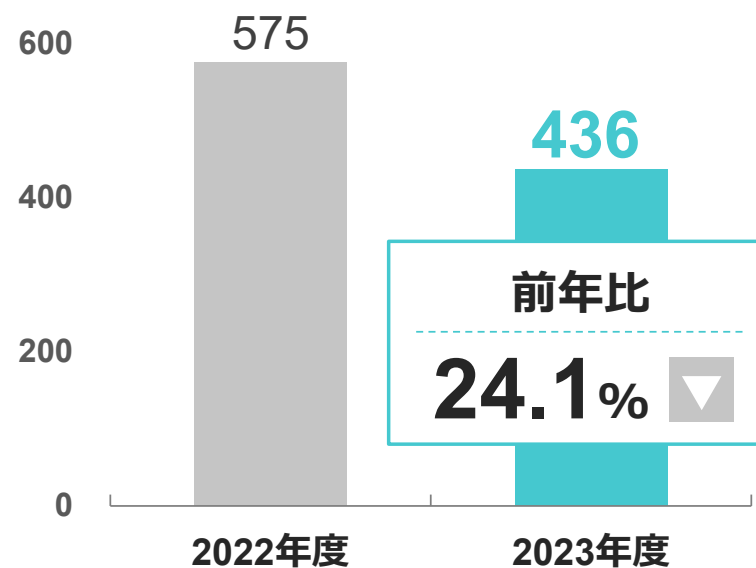
販売電力量

(万MWh)



売上高

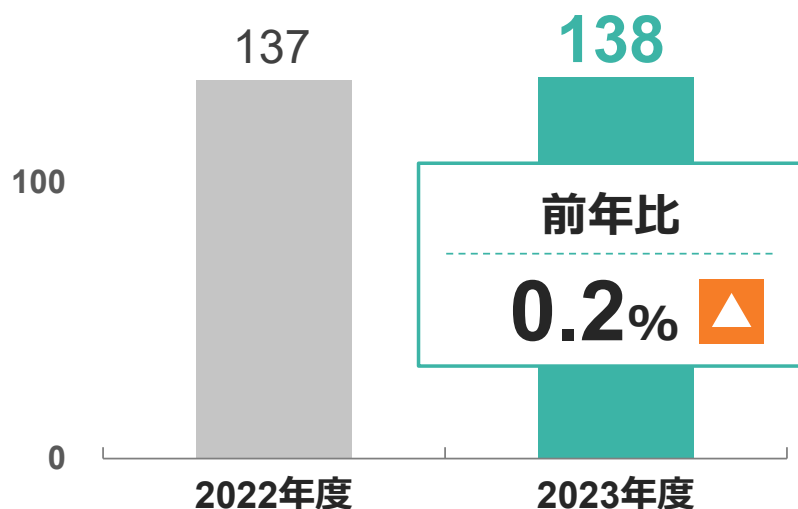
(億円)



利益重視の販売方針により販売電力量、売上高は減少

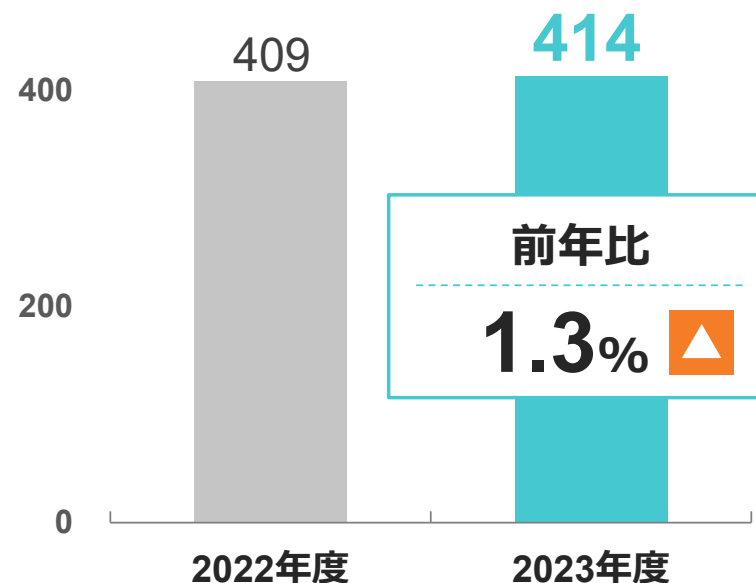
販売電力量

(万MWh)
200

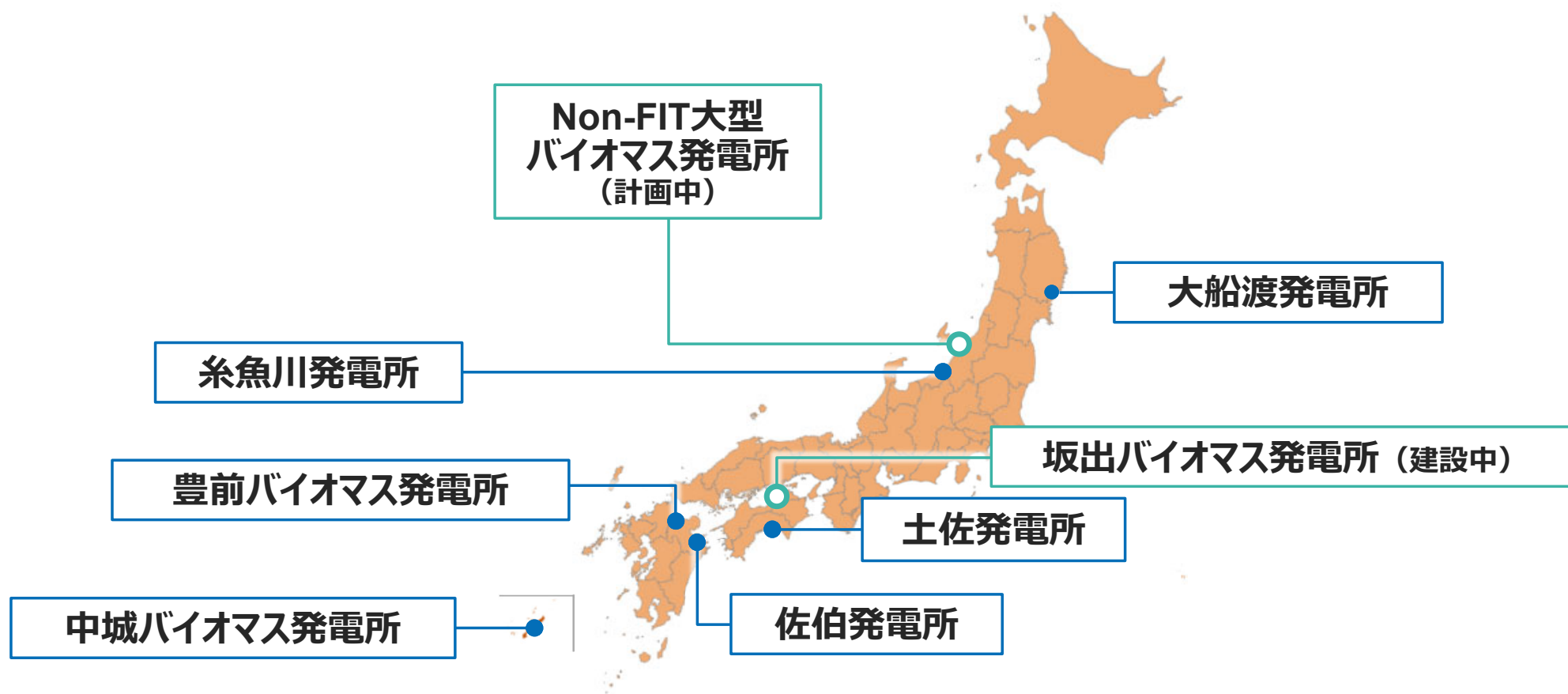


売上高

(億円)

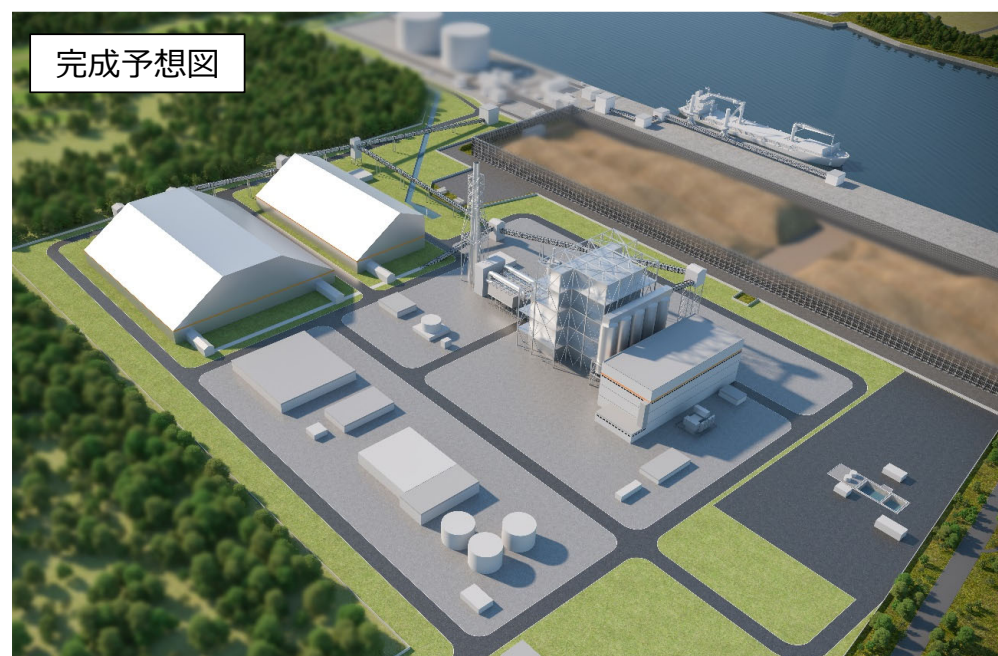


販売電力量、売上高は横ばいだが、
市場連動プランへの切替えにより収益は安定化



既存バイオマス発電所は順調に稼働

Non-FIT大型バイオマス発電所



営業運転開始に向け環境アセスメントが進捗

水素発電実証プロジェクト



実証運転を終了し、水素製造コスト低減策を検討・検証

イエンバイ トウエンクアン



- 新設バイオマス発電
- 石炭火力コンバージョン
- 燃料事業

アンジャン
(2025年着工予定)

ハウジャン
(2024年末稼働予定)

2023年12月26日に、ベトナム国首相、同国計画投資大臣が出席する会議にて、当社のバイオマス発電／燃料事業へ期待している旨の発言



海外事業 – カンボジア



迂回トンネル



上流入り口補強工事

水力発電
プロジェクト

バイオマス発電
事業化検討



約270km
(3~4時間)

プノンペン

2023年12月18日に、
岸田首相、カンボジア国首相立会いの下で、
同国とバイオマス事業に関する覚書締結



A detailed 3D rendering of the Earth's globe, showing the Western Pacific region. A white circular line highlights the area around Japan and the Philippines. The globe is tilted, showing the blue of the oceans and the green and brown of the continents.

連結貸借対照表

招集ご通知 33ページ

連結貸借対照表（2024年3月31日現在）



資産合計

1,451億80百万円

前年度末比 ▲269億25百万円

流動資産

669億3百万円

前年度末比 ▲124億26百万円

固定資産

782億77百万円

前年度末比 ▲144億98百万円

負債合計

899億47百万円

前年度末比 ▲82億05百万円

流動負債

414億11百万円

前年度末比 ▲69億89百万円

固定負債

485億36百万円

前年度末比 ▲12億15百万円

純資産合計

552億33百万円

前年度末比 ▲187億20百万円

A detailed 3D rendering of the Earth's globe, showing the Western Pacific region. A white circle highlights the area around Japan and the Philippines. The globe is tilted, showing the blue of the oceans and the green and brown of the continents.

連結損益計算書

招集ご通知 34ページ

連結損益計算書（2023年4月1日～2024年3月31日）



売上高

2,449億77百万円

前年比

17.3%



営業損益

▲198億51百万円

前年比

346億円



経常損益

▲183億88百万円

前年比

336億円



親会社株主に帰属する
当期純損益

▲222億57百万円

前年比

313億円

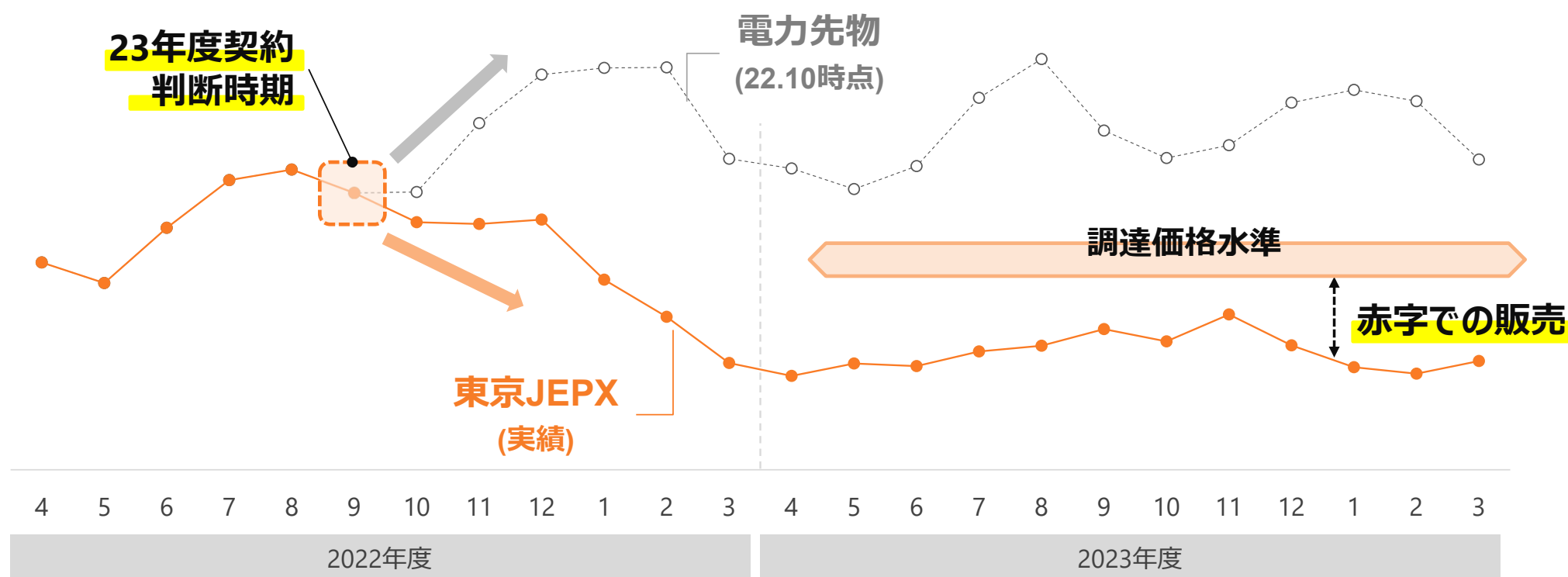


2023年度の総括と 対処すべき課題



2023年度の損失についての説明

2022年度第3四半期に競争力があると想定して確保した23年度向けの相対電力契約が結果として割高となり、余剰となった電力を卸電力取引所(JEPX)へ販売することを余儀なくされ、大幅な赤字の要因となった



2023年度の反省点

調達と販売の
アンバランス

社内部門間の
連携不足

財務体質の
毀損

バランス最適化

小売の販売量に対して
適正な量と価格で
都度調達

部門連携強化

組織を横断した
『SCR室』『需給戦略室』
『海外事業統括部』
を設置

財務体質改善

戦略的パートナーとの提携
第三者割当増資による
海外事業成長資金の確保

The title '2024年度 事業計画' is written in a large, bold, black sans-serif font. It is positioned on the right side of the slide, with a faint, light gray map of Southeast Asia in the background. A solid orange horizontal line is placed directly beneath the text.

2024年度 事業計画

2023年度実績（日本基準）

[億円]

売上高	2,449
営業利益	△193
経常利益	△183
純利益	△222

2024年度計画（IFRS）

[億円]

売上高	1,554 *
営業利益	53
税引等調整前 当期純利益	43
純利益	18

*売上高が大幅に減少している理由は、事前取引量の予測が困難な需給調整のための取引による売上を、計画から除外したため

**国内
小売**

電気代を安定させる完全固定プランや
固定と変動のハイブリッドプラン等の独自プランの拡充

複数の再エネ電源と需要家を結びつけるアグリゲーター機能の強化

**海外
(東南アジア)**

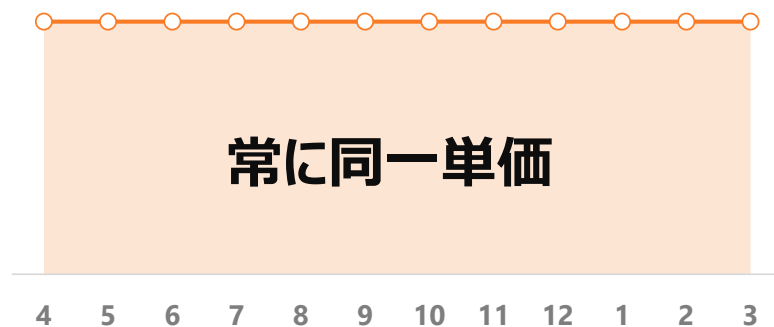
戦略的事業パートナーと協業し、電力需要が増加する東南アジアで
の再エネ電源及びバイオマス燃料開発の推進

バイオマス発電所から創出されるカーボンのクレジットの獲得

完全固定プラン

- 1年を通じて同一単価
- 燃料価格変動等の影響が無く、
電気代の予測が容易

変動リスク無し



ハイブリッドプラン

- 市場連動と完全固定の組み合わせ
- 安価な市場のメリットを享受しつつ、
大きな変動リスクは回避

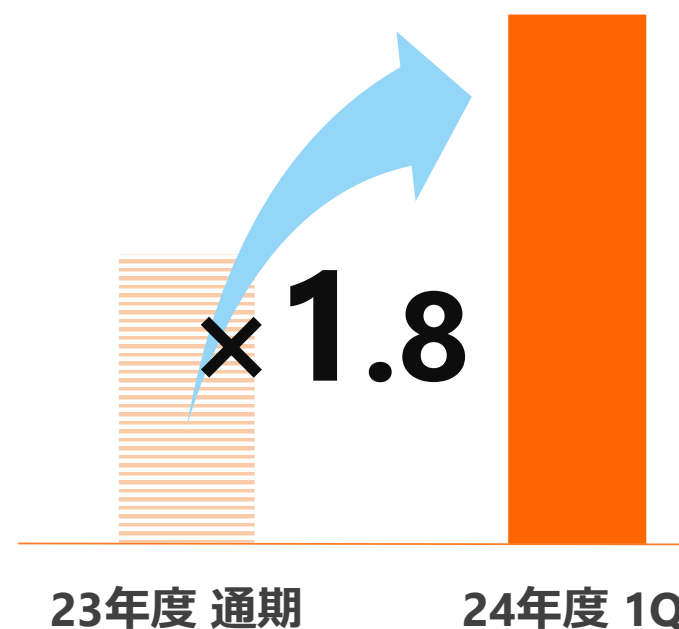
リスク高騰リスク回避



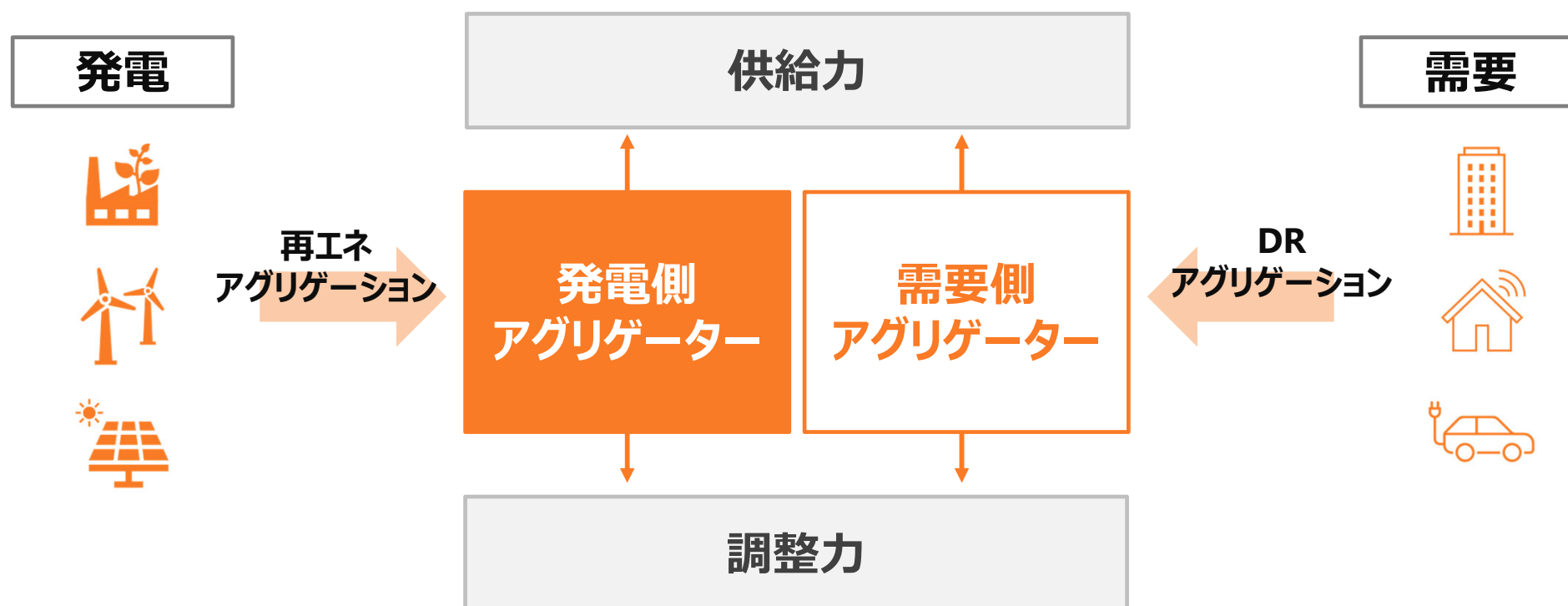
24年度第1四半期の
新規獲得契約kWは
前年1年間を上回る

新規獲得kW

(前年度通期 比較)



需要家の再エネニーズに対応するため、長年培った需給調整の機能を
活かし、**アグリゲーター機能の強化**を図ります



A 3D rendering of the Earth showing the Southeast Asian region highlighted with a white circle and green starburst effects. The background of the slide features a faint, light gray map of Southeast Asia.

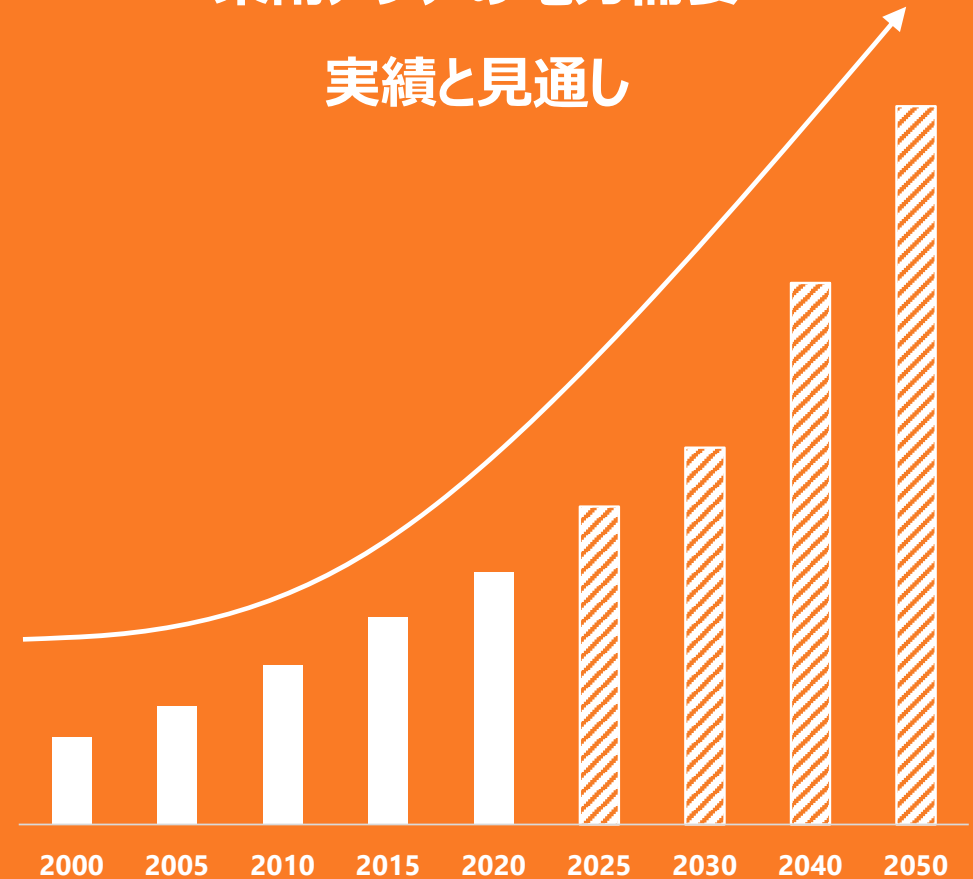
中長期の成長戦略

東南アジア各国のエネルギー自給率
向上を軸とする地域発展への貢献

急増する東南アジアの電力需要

ベトナムやカンボジアなどの
東南アジアは経済成長に伴い
電力需要が急増

東南アジアの電力需要
実績と見通し



エネルギー自給率の低下

電力需要が急増した結果、

化石燃料や電力の輸入により

エネルギー自給率が低下

エネルギー自給率(2019)

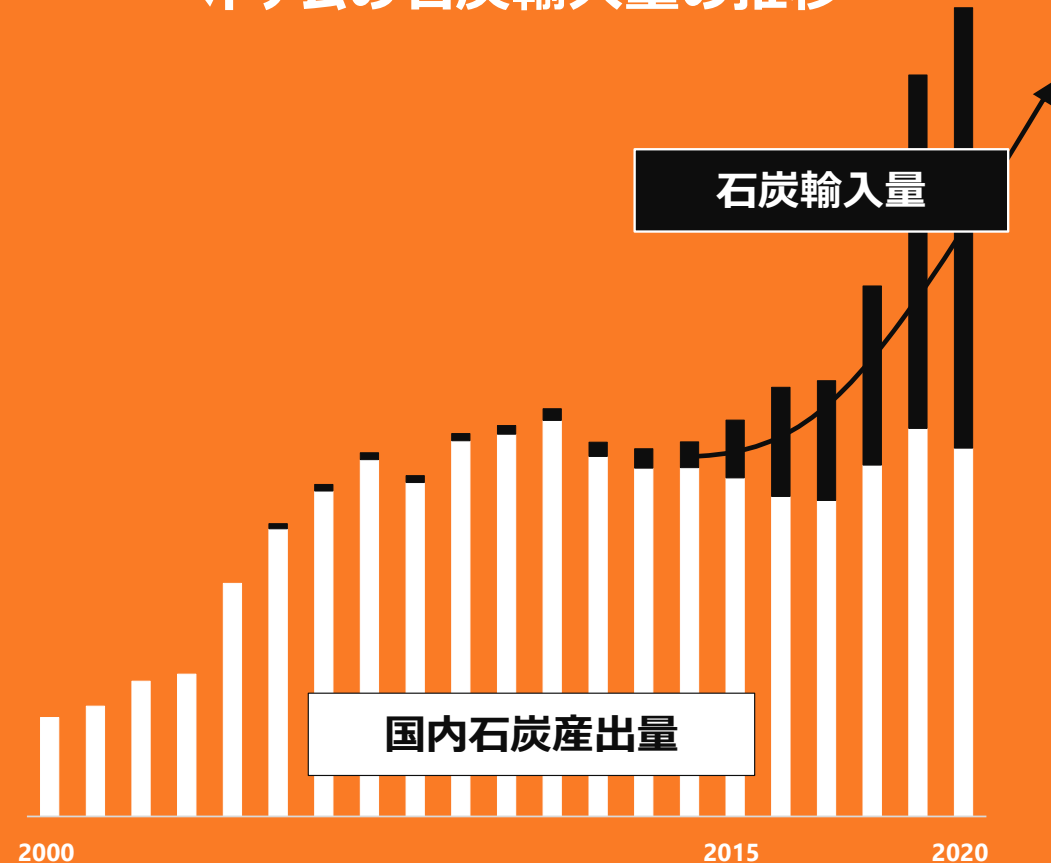
ベトナム

66%

カンボジア

48%

ベトナムの石炭輸入量の推移



バイオマスによる課題解決

東南アジアが抱える課題

需要増に伴う

①電力不足

②エネルギー自給率低下

に加えて

③脱炭素への対応

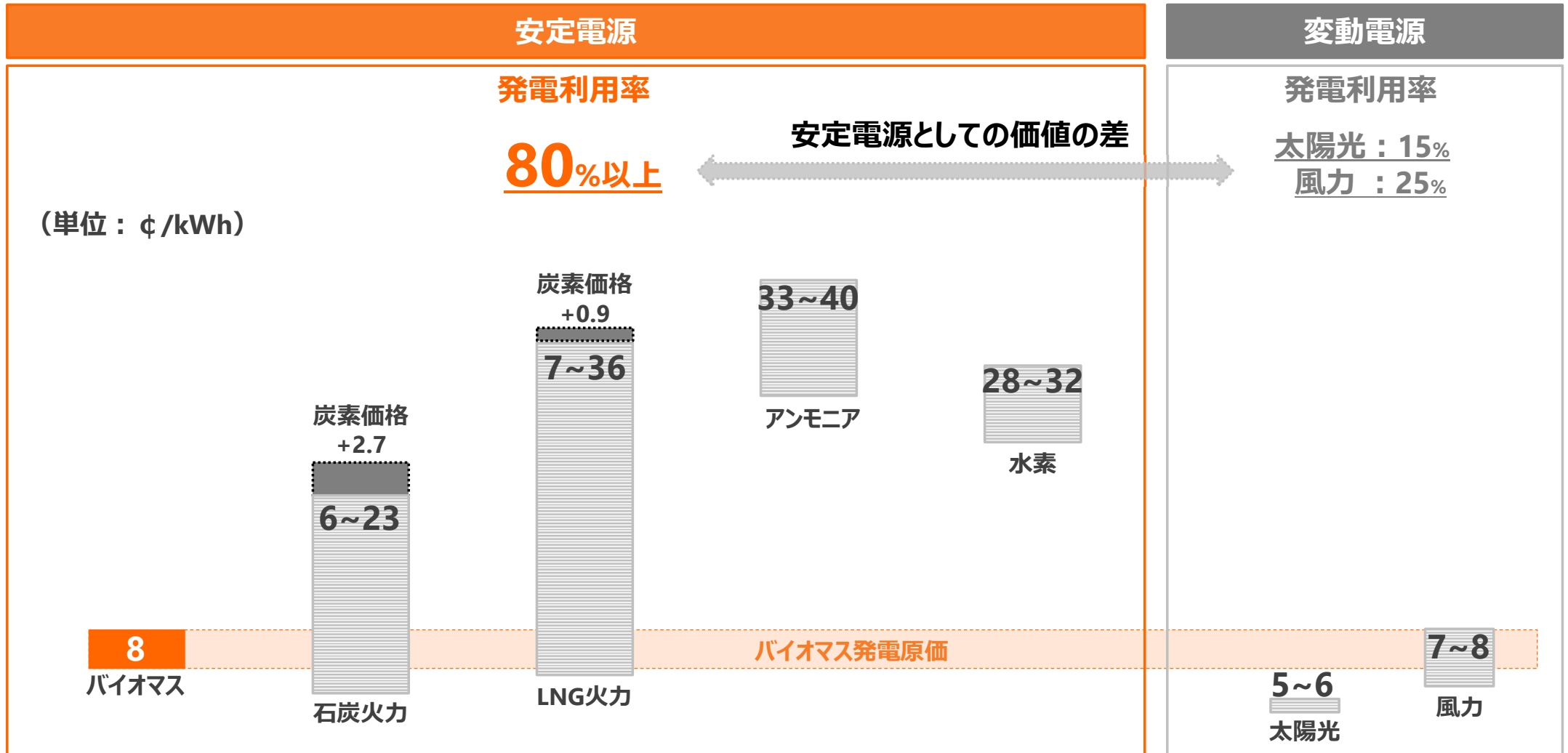
課題解決

当社の経験・知見を活かし、
バイオマス発電を展開することが
最適なソリューション



イーレックスの力で
両国を脱炭素のモデル国に

Why Biomass ? ①



Why Biomass ? ②



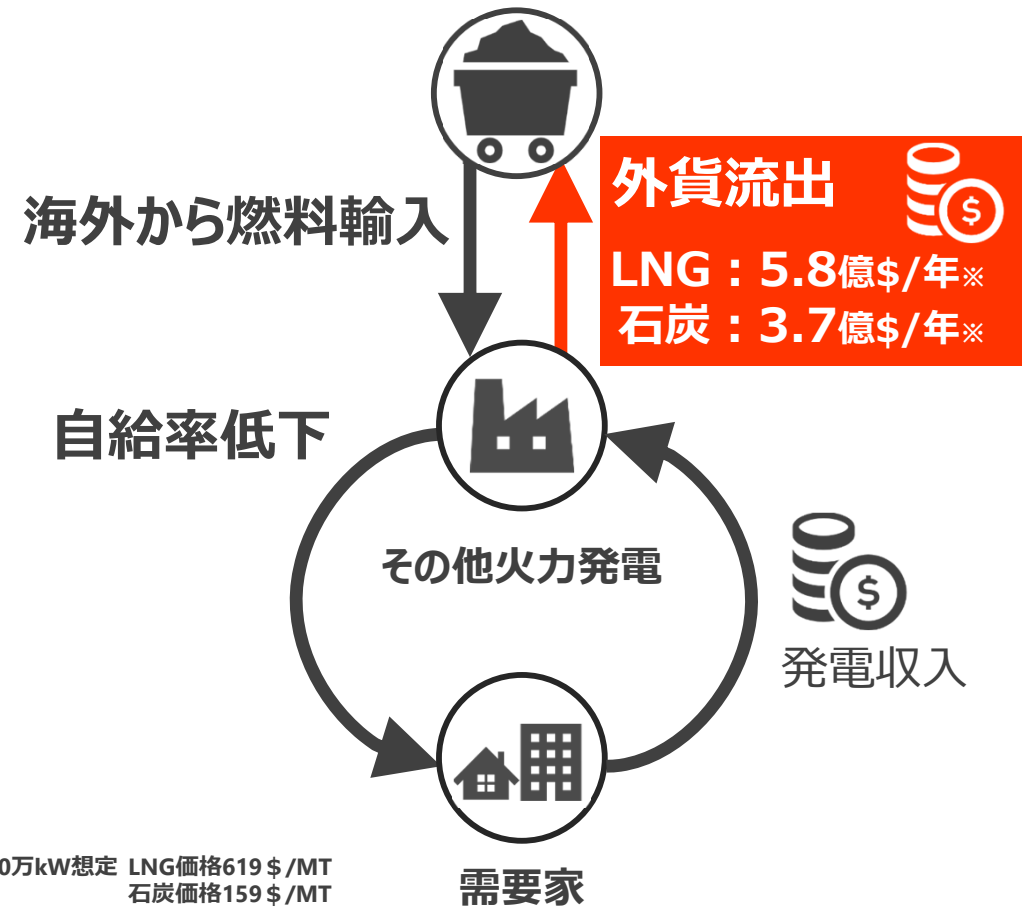
バイオマス発電

循環型エネルギーモデル



その他火力発電

非循環型エネルギーモデル



※100万kW想定 LNG価格619\$/MT
石炭価格159\$/MT

Why Biomass ? ③



バイオマス事業の価値

Advantages of Biomass Businesses



01 雇用創出・所得向上

04 エネルギー自給率向上

02 安定的な電気

05 CO2フリー電気

03 競争力のある電気

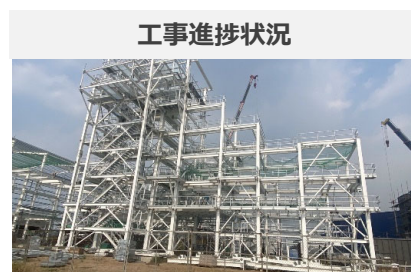
06 環境維持・改善

■ 新設バイオマス発電プロジェクト (PDP8)

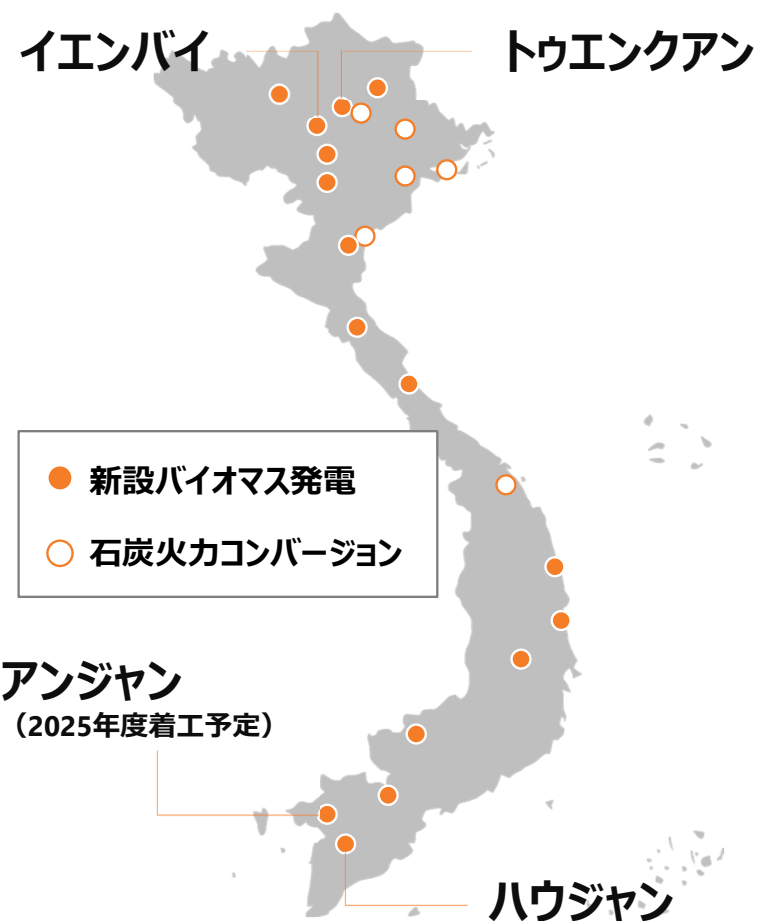
- ベトナム第8次国家電源開発計画 (PDP8) の実施計画が承認 (2024年4月1日)
- 18地点 (最大1,100MW) の計画を保有
- イエンバイ、トゥエンクアン発電所について、**年内着工予定**
- 着工後、約2年半後に運転開始予定
- 3号案件として、アンジャン発電所を選定
- 石炭火力のフューエルコンバージョンにも取り組む計画

■ ハウジャンバイオマス発電プロジェクト(PDP7)

- 工事は順調に進捗
- **2024年12月に運転開始**



プロジェクト地点



■ ペレット工場プロジェクト

- 「アジア・ゼロエミッション共同体(AZEC)官民投資フォーラム(2023年3月)」の場で、トゥエンクアン、イエンバイ省とMOUを締結し、プロジェクトを推進
- トゥエンクアンは、2024年12月頃運転開始予定
- イエンバイは、2025年1月頃運転開始予定

■ その他

- 発電所建設資金は、海外政府系金融機関によるプロジェクトファイナンスを予定
- 脱炭素を実現するための既設石炭火力発電所へのバイオマス燃料高比率混焼に関わる実証研究に取組中（NEDO案件）



トゥエンクアンペレット工場完成予想図



トゥエンクアンペレット工場起工式

東南アジア① – ベトナム カーボンクレジットの取扱い



- 脱炭素実現のためには、カーボンクレジットが有効であり、各国が取り組みに注力
- 2024年5月、ベトナム国天然資源環境大臣と当社プロジェクトから創出されるカーボンクレジットについて協議を実施
- 当社プロジェクトから創出されるカーボンクレジットのうち、ベトナム国に帰属するカーボンクレジットをイーレックスが50%取得する方向で調整中

■ 新設バイオマス発電プロジェクト



最大 18 地点
合計 1,100 MW

■ Fuel Conversionプロジェクト



最大 6 地点
合計 1,585 MW

カーボン
クレジット創出※



※ベトナム帰属分

ベトナム
50

イーレックス
50

■ 水力発電プロジェクト

- ポーサット州における80MWの水力発電所建設が進行中（2025年11月運転開始予定）
- 上記発電所の下流部分にて、**第2水力発電所（20~30MW）**の開発を検討中

■ バイオマス発電プロジェクト

- 鉱業エネルギー省との間で、バイオマス燃料やバイオマス発電の開発に関する役割等を確認するMOUを締結済（2023年12月）
- 最短で今秋の着工を目指し、現地のバイオマス燃料調査、建設予定地選定、投資許可取得などの手続きが進行中

＜水力発電所完成予想図＞



01.背景

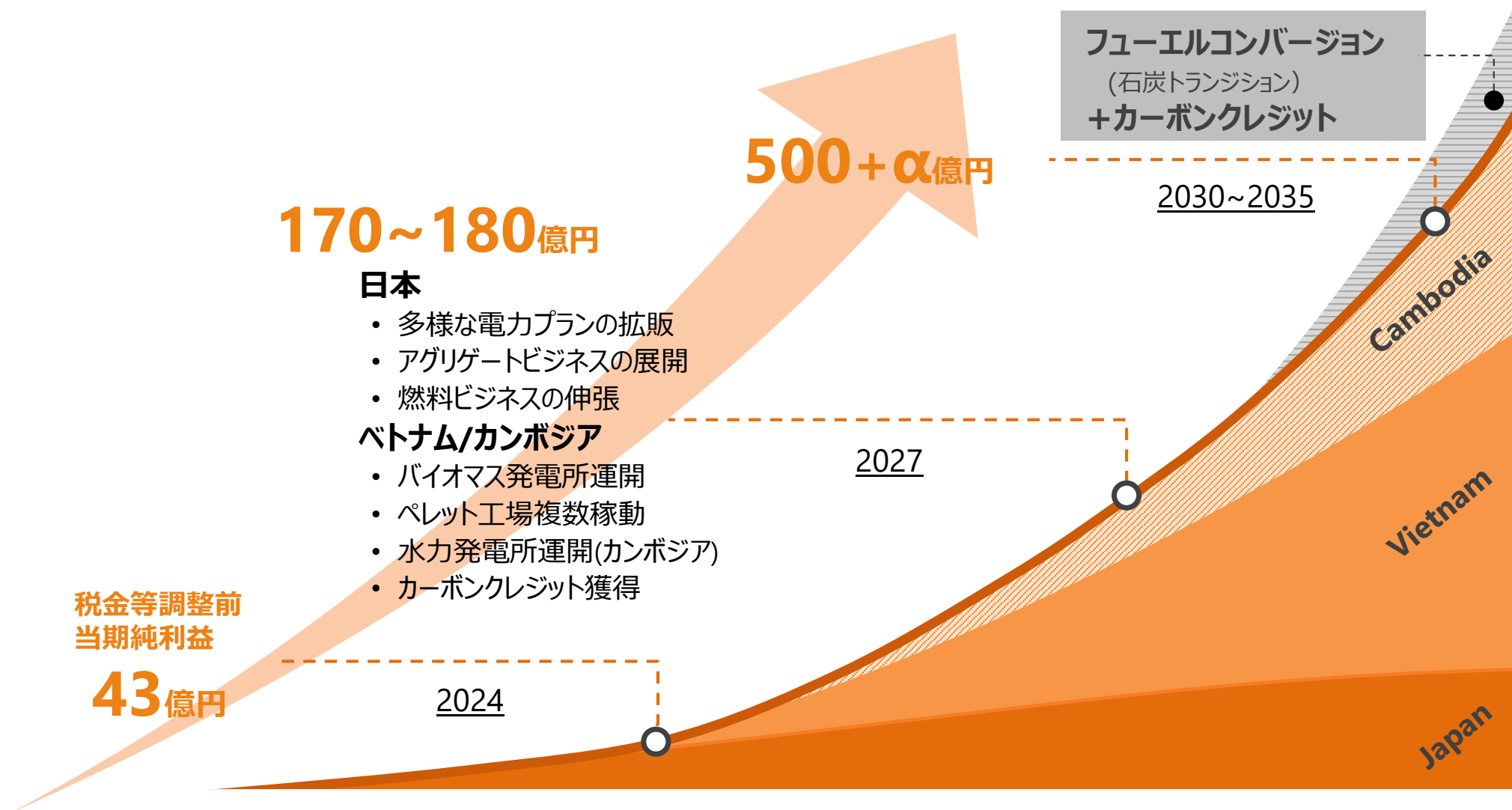
- 2023年度決算の大幅赤字により毀損した財務体質の改善及び、ベトナム等の海外事業成長資金として第三者割当による新株発行を実施（総額118億円）
- 当社グループが推進する事業と親和性が高く、成長事業の取り組みにおいて相互に補完し合える以下の4取引先を対象に実施

JFEエンジニアリング 九電工	戸田建設 三井住友ファイナンス&リース
--------------------	------------------------

02.展望

- 割当先企業と更なる関係強化を図ることで、今後の取り組みの加速や補完機能による相乗効果が期待され、双方の企業価値向上に資すると思料

中長期の成長イメージ



erex

ENERGY RESOURCE EXCHANGE